

(新) 廃棄物処理システムにおける革新的な温室効果ガス排出抑制対策
検討調査

50百万円(0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課

1. 事業の概要

地球温暖化対策は喫緊の課題であり、6月、ドイツで開催された第33回主要国首脳会議(ハイリゲンダム・サミット)にて、2050年までに温室効果ガスの排出量を半減するとの宣言が採択されており、その実現に向けた抜本的な施策が求められているところ。

廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出は、我が国の温室効果ガスの排出のうち3%を占めており(一般廃棄物1%、産業廃棄物2%)、この部門において、全体の排出量半減に貢献するには、廃棄物エネルギーの徹底利用に加え、低炭素社会と循環型社会の両方に貢献する3Rシステムの具体像を早期に提示することが必要であるため、以下の事業を行う。

- (1) 廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出状況の把握方法の調査を行う。
- (2) 温室効果ガスの抜本的な削減方策の調査、検討(技術評価と費用対効果の評価)を行う。
- (3) 抜本的な削減方策モデル実証の実施を行う。

2. 事業計画

- 平成20年度 専門委員会の開催、削減方策の検討・とりまとめ、抜本的対策のモデル実証の実施
- 平成21年度 50年に向けたロードマップの作成、抜本的対策のモデル実証の実施
- 平成22年度 抜本的対策のモデル実証の実施、モデル実証結果の評価とその成果の普及
- アウトプットとして、循環基本計画見直しへ反映(平成23年度～)

3. 施策の効果

2050年までに温室効果ガスを半減できるようなロードマップを作成し、中長期的に対策に取り組む体制を整備する。最終的な成果として、2050年までに温室効果ガスの半減を達成する。

4. 備考

調査費

(内訳) 廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出状況の把握方法の調査

25,000千円

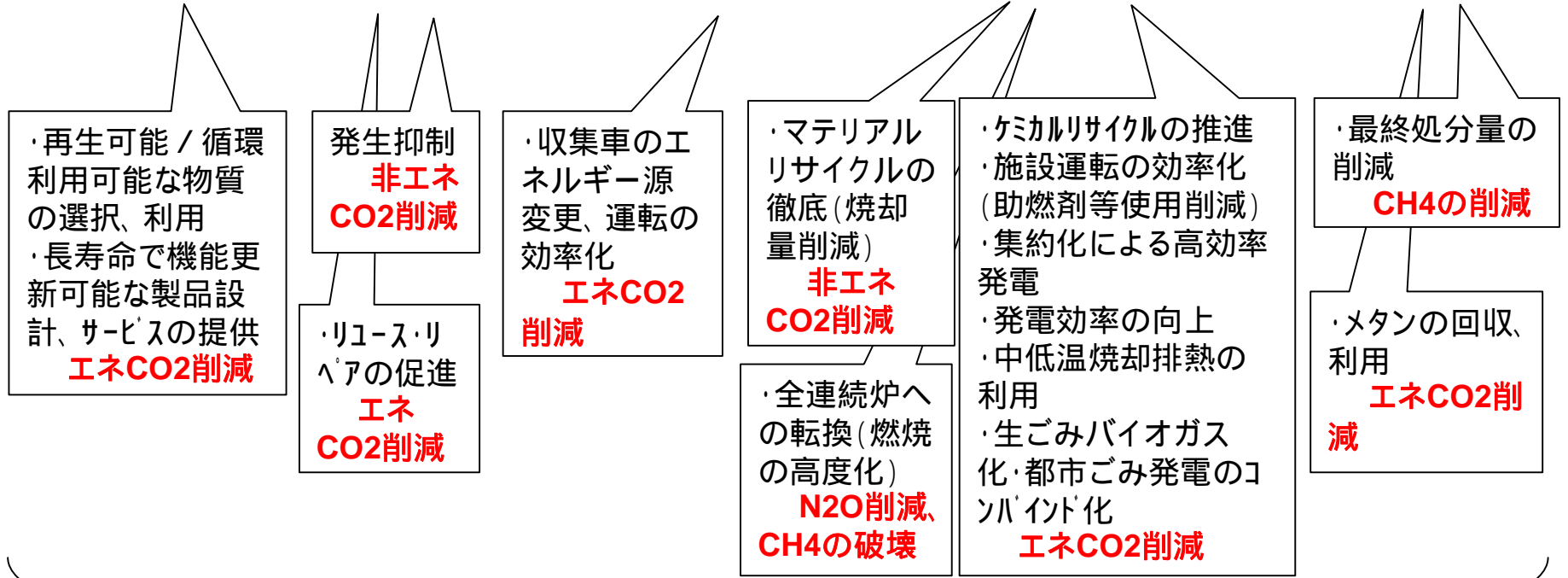
温室効果ガスの抜本的な発生源別削減方策の調査 25,000千円

廃棄物処理システムにおける革新的な温室効果ガス排出抑制対策

(モノの流れ)



(対策・削減ガス)



・温室効果ガスの抜本的な削減方策の調査、検討(技術評価と費用対効果の評価)
・抜本的な削減方策モデル実証の実施

2050年までに温室効果ガスを半減
低炭素社会及び循環型社会構築に貢献